

「A」次の古語の訳語として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 1 とときめく
 - ① 指図を受ける
 - ② 接待を受ける
 - ③ 保護を受ける
 - ④ 寵愛を受ける
- 2 かたらふ
 - ① 交際する
 - ② 見舞う
 - ③ 音楽を奏でる
 - ④ 返事をする
- 3 もてなす
 - ① からかう
 - ② 話しかける
 - ③ 招待する
 - ④ 振る舞う
- 4 うちいづ
 - ① 思い出して言う
 - ② 納得して言う
 - ③ 口に出して言う
 - ④ 初めて言う
- 5 およすぐ
 - ① 成長する
 - ② 広くなる
 - ③ 満足する
 - ④ 傷つく

「B」次の文の（訳）の「 」「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

- 6 ある暮れ方に都を出でて、嵯峨の方へぞあくがれ行く。（平家物語）
 - （訳）（横笛は）ある夕暮れに都を出て、嵯峨の方へ「 」「」行く。
 - ① 急いで
 - ② さまよひ出て
 - ③ 向かって
 - ④ あこがれて
- 7 御様をやつし、いやしき下のまねをして、日吉社に御参籠あつて、七日七夜が間、祈り申させ給ひけり。（平家物語）
 - （訳）（関白殿の奥様は）ご様子を「 」「」、身分の低い者のふりをして、日吉社に参籠なさつて、七日七夜の間、お祈り申し上げなされた。
 - ① 派手な格好にし
 - ② みすぼらしい感じにし
 - ③ 疲れた感じにし
 - ④ 地味な格好にし
- 8 よき人は、ひとへに好けるさまにも見えず、興ずるさまもなほざりなり。（徒然草）
 - （訳）身分が高く教養のある人は、ひたすら情趣を好むようにも見えず、「 」「」様子もほどほどである。
 - ① 訴える
 - ② おもしろがる
 - ③ ふざける
 - ④ 感心する
- 9 院宣宣旨のなりたるに、しばしもやすらふべからず。（平家物語）
 - （訳）上皇の命令が下されたのだから、ちよつとの間も「 」「」べきでない。
 - ① 考える
 - ② ためらう
 - ③ 休む
 - ④ 離れる
- 10 やんごとなき女房の、うちそそばみてみ給へるを見給へば、わが思ふ人なり。（住吉物語）
 - （訳）高貴な女性が、ちよつと「 」「」て座つていらつしやるのを（中将は）ご覧になると、自分の恋い慕う人である。
 - ① 下を向い
 - ② 目配せをし
 - ③ 横を向い
 - ④ 目を閉じ
- 11 遣水心細く、音細くおとなひたり。（十訓抄）
 - （訳）遣水が心細く流れ、水の音が細く「 」「」ている。
 - ① 送られ
 - ② 響き合つ
 - ③ 過ぎ去つ
 - ④ 音を立て
- 12 十一月、十二月の降り凍り、六月の照りはたたくにも、さはらず来たり。（竹取物語）
 - （訳）（男たちは）陰曆十一月、十二月の雪が降つたり氷が張つたり、六月の日が照つたり雷が鳴つたりするときにも、「 」「」ず（かぐや姫の家に）やつて来た。
 - ① 時を経
 - ② 妨げられ
 - ③ 気にかげ
 - ④ 遠慮せ
- 13 すみける男、夜深く来ては、まだ暁に帰りなです。（平中物語）
 - （訳）「 」「」ていた男は、（女のもとに）夜遅く来ては、まだ夜明け前に帰りなどする。
 - ① 愛し
 - ② 信じ
 - ③ 通つ
 - ④ 交際し
- 14 昔、男、初冠して、平城の京、春日の里に、しるよしして、狩りに往にけり。（伊勢物語）
 - （訳）昔、ある男が、元服して、奈良の都の、春日の里に、「 」「」縁で、鷹狩りに行った。
 - ① 土地を借りている
 - ② 親族が住む
 - ③ 詳しくなっている
 - ④ 土地を領有する
- 15 かの左衛門督はえなられじ。また、そこにさられば、こと人こそはなるべかなれ。（大鏡）
 - （訳）あの左衛門督は（中納言に）おなりになることはできないだろう。また、あなたが「 」「」になるのならば、違ふ人なるだろうということだ。
 - ① 去り
 - ② 許し
 - ③ 断り
 - ④ 決め

